



‘動く対県交渉、  
…願いを全身でうけとめ

## 「走る政治家」 4期目へダッシュ!

さあ、4期目。私はこの間、市内約30カ所の道路・信号・水害対策などの改善を求め、行政と一緒に‘動く対県交渉、を約200人の住民と実施し、「走る政治家」と呼ぶ人も。

「雨の日、子らが傘をさせない狭い通学路」「ダンプの振動で眠れぬ車道」「車いすで、ごみ捨てや買い物にも行けないガタガタの歩道」「渡りきれない青信号を長くしてスクランブルに」など、実態を県に届けてこそ改善の道が開けます。‘住民が主人公、で、街づくりもがんばります!

振動で夜眠れない  
交差点を何とかして!



## 3人の 子育て 忘れられない アイスの味



先日、あるレストランで「選挙、頑張ってね」と励まされ涙があふれました。3人の母となった私が、議員めざして9年、議員になってから12年。夫も保育所に「赤いおんぶ紐」で送迎し、私も子らが眠ってからの一仕事に無我夢中の時代も。

ある時、家族の労をねぎらうはずのこのレストランで、誰かれなくイライラして大喧嘩。するとお馴染のマスターが「仲直りして」とにっこりアイスクリームを差し出してくれた…今でも家族の語り草です。

# "みわ由美さんの歩んだ道"

## 父の言葉が私の原点 「戦争と貧乏をなくすのが共産党の仕事」

幼いころ、父が結核にかかり、家計は火の車。ひとり働く助産師の母が頑張っても、食費と治療費がやっとならぬ、家賃が払えないときもありました。私は、督促がこわくて障子の陰に。

でも、いつもリンゴのような赤い頬で「しあわせのうた」を歌っていた母。「戦争と貧乏をなくすのが、共産党の仕事だよ」と、やさしく教えてくれた父。そして、困ったときに、いつも助けてくれた人々の温もりが忘れられません。



## 文武両道

小学時代から書道、中学は合唱、高校では剣道・茶道・華道と、文武両道に挑戦。古典文学が大好きな夢見る女生徒でした。

## 森永ヒ素ミルク事件、なぜ? 高校全校集会で訴え

高3になった私は、同世代の女子高生が事件の被害に苦しむ報道に「人ごとではない」と衝撃。見知らぬ彼女を探し、自校に招き「涙と怒りの全校集会」を開催しました。‘ひとの命より、大企業や財界のもうけ優先の社会、は変えたい!

水俣病などの公害問題を学びたくて立命館大学への入学をめざした19歳の秋、私は日本共産党員に。かつての京都府庁舎には、「憲法を暮らしに生かそう」の垂れ幕が、かがやいていました。



趣味はギターの  
弾き語り